



近畿支部会報2016年9月号

木々の葉が色付き初め、彼岸花も咲き、秋の訪れが感じられる頃となりました。けれども、台風や大雨が各地を襲い、一瞬のうちに死者が出るという痛ましい事も起こっています。お亡くなりになられた方には、心からお悔やみ申し上げます。又、被害にあわれた方が、一日も早く普通の生活を取り戻して頂けますように、お祈りいたします。

連日テレビを賑わわせたブラジルでのオリンピック、パラリンピックも、多くの選手の奮闘のうちに幕がおりました。ニューヨークでは爆発が起きました。間もなく我が家に来るトラベラーから、空港からのリムジンバスの中に荷物を忘れたが、翌日忘れ物保管所へ行くと見つかった。自国フランスでは盗まれて返ってこないのにと、感激のメールが来ました。

色んな事が起こる昨今ですが、皆様それぞれに「天高く馬肥ゆる秋」を楽しんで下さい。

今回の会報は、次の内容でお届けします。

1.例会報告	和泉市	A.K
2.トラベラー受入れ報告	アメリカとドイツからのお客様	交野市 K.K
	誰からも愛される Kちゃん	京都市 K.K
	日本びいきのスペイン女性	和泉市 A.K
	初めてのディHOST	京都市 S.Y
3. トラベル報告	アムステルダムの旅	奈良市 K.J
	Kiel & Regine Durmeyer さん訪問	堺市 H.N
	アイルランドの旅	交野市 K.K
4.会員交流「北から南から」	東日本震災被災者夏の保養報告	大津市 W.A
5.お知らせとお願い		支部長

1.例会報告

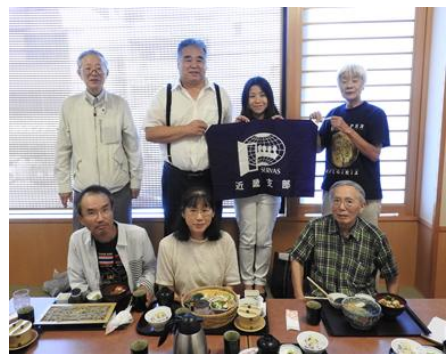
台風の影響もあり、雨模様の9月18日(日) 11時30分から13時30分まで、「かごの屋」茨木春日丘店で、会員7名の参加で、例会が始まりました。「なでしこ弁当」、「お昼の麺道楽」「お昼の五穀麺道楽」をいただきながら、報告と討議という形で、例会は進みました。

1. 国内会議の報告と討論について

議長からの以下の文書をもとに、行いました(サーバスホームページ参照)。

- 2016年日本サーバス国内会議及び臨時国内会議の報告
- 2016年日本サーバス国内(札幌) 会議議事録
- 2016年日本サーバス臨時国内(京都) 会議議事録

和泉市 A.K



・支部で討議する事となっている Face Book について

多くの人たちに知らせたり、情報交換が出来るというメリットがあるが、インターネットは常に情報漏えいと裏腹である。それで支部としては取り組まず、個人対応とする。

2. グループメールでのホスト募集に際しての LOI について

今までグループメールでホストを募集する時、LOI は添付していませんでしたが、ホストの情報を知りたいという声があります。それで、ホスト募集をする人の LOI より、パスポート番号・電話 Fax・Eメールアドレス・Emergency contact をカットして、LOI を添付する事に決まりました。

3. サーバスのロゴマークが新しくなったことに伴う支部の旗について

来年度予算を計上して作る事になりました。

4. 支部の運営（主に役員）について

支部役員は来年度が改選の時期です。今、ホストコーディネーター、会報作成を支部長がしていますが、会員で分担する事になりました。会報作成については例会出席者の会員が引き受けて下さいました。

(以下は報告事項 サーバスホームページ参照)

1. 日本モンゴル障がい児家族交流キャンプは、好評のうちに無事終わりました。
2. 東日本震災被災者支援は、W 会員が 1 組 3 人を受け入れて下さいました。
3. モンゴルからも出品してもらった「平和を願う子供たちの作品展」は三井寺で行われ、主催者からもモンゴルの出品を喜んでいただきました。
4. 日本サーバス会長よりの「公開質問状に対する見解」は、8月5日に配信されました。近畿支部ではこの件について 1 会員がグループメールで言及されていたので、支部長から支部会員に転送しました。
5. 本部役員のユース部会長が辞任されたため、副会長が代行される事になりました。
6. 日本サーバス本部が直面する課題への対応をスムーズにするために、プロジェクトチームが設けられました。
7. 電子ホストリストは今年度から国内の会員に対しても開示できるようになり、希望者は支部長に申し出る事になりました。

2. トラベラー受入れ報告

アメリカとドイツからのお客様

交野市 K.K

7月1~4日 L.S(F) US を、7月10~12日 E. R(F) Germany を受け入れました。

アメリカの大学でアートと文化人類学を専攻し、世界各地を旅しながら墓地や葬儀について1年間リサーチをしてきたというLは、まだ23歳の若いアメリカの女の子でした。スウェーデンから始まり、ドイツ、エジプト、アルゼンチン、オーストラリアそして日本と、世界の様々な文化やアートを学ぶ彼女の話はとても興味深く、また彼女のアート作品には圧倒されるほどのパワーがありました。笑顔がとっても素敵でフレンドリーな彼女は、私の学校に来た時も子どもたちとすぐにうちとけ、一緒に音楽や図工の授業を楽しみました。



Eはスウェーデンで語学教師をしているドイツ人の女性です。音楽好きで、優しくてきれいな歌声がとても印象的でした。「日本でお好み焼きが食べたい」という彼女に、「よかった、今日の晩ご飯はお好み焼きだよ」と伝え、大喜びでたくさん食べてくれました。Eも私の小学校に来て、英語とドイツ語、スウェーデン語の3か国語を教えてくださいました。

誰からも愛されるKちゃん

京都市 K.K



7月に一度お断りしていたスペインのKから再度宿泊依頼が来たのは私が旅行から帰る予定の翌日でした。あわただしい中でしたが、よほど困っているのかなと思って、8月1日～3日、お引き受けしました。

イタリアの大学で世界の食文化について勉強していて、いつかフードライターになりたいという。丁度滞在中に、福知山のカントリーサイドに住む友人の所で、流しそうめんパーティーに誘われて、一緒に参加。畑のお野菜の収穫から、お料理、流しそうめんの流し役目まで、何でも積極的にする人懐っこい性格の彼女は、みんなからKちゃんと人気者でした。日本の夏の伝統的な流しそうめんと野菜畑、美しく実ったお米の田んぼに大喜びでした。

短いけれど楽しい出会い、きっとご縁があったのでしょう～。

彼女のご両親はバルセロナでレストランをされているそうで、食についての話題で楽しい会話が出来た素敵なゲストでした。

日本びいきのスペイン女性

和泉市 A.K

8月10～12日、18～20日 I.C (F) スペインを受け入れました。日本に6回来たことのある女性でした。メールにも日本語で「お返事を待っています。」と、書いていました。バルセロナ在住の高校の先生で、今は夏休みです。9月に入るまで学校には行かないそうです。日本の学校と似ているところ、違うところをいろいろ聞きました。数日前に我が家に来たKさんの家と近くと聞いてびっくりしました。名古屋から来られて、我が家でゆっくりと過ごしました。



12日は、荷物を置いて、特急「くろしお」に乗り、紀伊田辺に行きました。ここでは、ホテル泊でした。熊野古道を数日間楽しめました。その後、高野山の宿坊に1泊し、18日に帰ってきました。

疲れをとって、次のホスト宅の松本へ移動しました。

初めてのディホスト

京都市 S.Y

8月19日、KさんとMさんを嵯峨嵐山の駅でお迎えしました。彼女たちのバッグを家において、主人に車で奥嵯峨まで送ってもらって、そこから歩きました。嵐山の中心地は人がとても多いのですが、奥嵯峨は人も少なく、石畳の道をゆっくり歩いて、化野念仏寺、祇王寺、その辺りの竹林を見ながらメインの野々宮の竹林に行きました。野々宮の辺りは予想どうり凄い人でした。奥嵯峨の静かな竹林に案内できて良かったです。

暑かったのでお昼御飯をゆっくり食べて、家で休んで帰られました。私のつたない英語でホントに申

し訳なかったのですが、二人ともとてもフレンドリーな人で、楽しかったです。



K and M from Czech Republic

We stayed in Kyoto for 2 nights by T.H. We really enjoyed the evenings talking about Japan and traveling, also a delicious dinner with her neighbor. This was our first Servas stay. It was great experience to meet so nice people. Next morning, T took us great Fushimi Inari shrine. T arranged for us a day host in Arashiyama. Because, we wanted to visit a bamboo forest. We met Y.S at the station and she took us to Saga. Y is a very nice host. She was well prepared and showed us Kyoto around Saga-Toriimoto preservation museum, Adashino Nenbutsuji temple, Gioji temple and we enjoyed the path of bamboo. The bamboo is great. We have never seen one before. Y explained us a lot about bamboo and temples. We liked the quiet Saga, with not so many tourist in the morning. After our sightseeing we had a tasty lunch together, and talked about our trip and next plans.

We have great impressions and a lot of beautiful pictures from Kyoto.

Thank you T and Y!

3. トラベル報告

アムステルダムの旅

奈良市 K.J

7月の始めにアムステルダムに行きました。ほとんどホテルを取ったのですが、一人だけサーバスの方に泊めて頂きました。親切にも私達の泊まっているホテルまで迎えに来てくれ、トラム代まで払って下さいました。独身の男性でしたが、家は綺麗に片付けられ、鍵を渡されて家を自由に使っていいとのことでした。食べ物もすべて勝手に食べていいと言われ、私はコーラだけ頂戴しました。彼は仕事で忙しく、あまり長くお話することが出来ませんでした。とても親切にしてくれました。もっとサーバスを利用して、あちらこちらの人と交流すればよかったと、今となっては少し残念に思っています。

Germany K & R D さん宅訪問

堺市 H.N

2016.7.13~14

Hamburg の友人宅から車で2時間弱、牧場と森と湖に囲まれた小さな小さな村が出現した。バスは早朝の1本だけが走っている。“葦”（すぐ近くにある湖に、いっぱいはえている。）で葺かれた屋根の農家で、家の中はリメイクされていた。Rさんとご主人と6歳の息子さんの3人家族。

1日目は持参のルーでカレーを作った。具材はすべて自家製、牛肉までもがそうだった。山盛り作ったが喜んで食べて貰えた。息子のA君は、おみやげに持ってきた“箸”で食べようと奮闘していた。かなりテクニックがいるよね。

2日目、A君が通っている隣村の保育所について行った。ここがこのあたりの中心らしく、役所関係の建物がそろっているが、この村もかなり小さい。その後、Rと一緒にフェ



ルトの薄いクッションを作る。染色されただけの羊毛を数色重ねて好みの模様にする。日本でも作られているようだが、もとは北方の国々の女性が長い冬の楽しみとして産み出されたものとのこと。一緒に作るつもりが（いつものことだけど）ほとんど彼女がやってくれた。初めての経験が興味深かった。

3日目、午後からのクルーズの出発点である Kiel 港まで車で送って下さった。
何から何までお世話になりました。

アイルランドの旅（2016年7月31日～8月21日）

Dublin ~ Galway ~ Kerry ~ Dublin

交野市 K.K

昨年の夏、我が家でアイルランド人家族をホストしました。その時にお土産でいただいた写真集で見たアイルランドの美しい景色にとっても心魅かれ、ぜひ一度訪れてみたいと思うようになりました。向こうの家族からも「いつでも遊びにおいで！」と誘いの言葉を受け、この夏休みにサーバスでアイルランドを旅することにしました。

7月31日～8月7日 Celbridge (J & A宅)



Dublin ダブリンの空港で1年ぶりにJと再会しました。天気がよかったので、ダブリン郊外にある Howth ホースという港町を案内してもらいました。夏でも最高気温が20度を超えることはまれで、涼しいというより少し肌寒く感じました。お昼ごはんはJ自慢のアイルランド名物「アイリッシュ・ブレックファスト」を自宅でいただきました。カリカリに焼いたベーコンとソーセージ、ブラックプディングにホワイトプディング、目玉焼きにマッシュルームと焼きトマト、それにトーストまで食べて、初日からアイルランドを満喫しました。ダブリン郊外の Celbridge セルブリッジに住むJの自宅近くには広々とした公園があり、1時間ほどかけてゆっくりと愛犬を散歩させます。そこには、犬を散歩させる人や家族連れがたくさんいて、(自宅の徒歩圏内にこんなに自然豊かな場所があるとはなんて贅沢！しかもその時間を確保できるゆとりがうらやましい！) 初日からアイルランドの生活の豊かさにカルチャーショックを受けました。

JとAの「好きなだけうちに泊まっていいからね。」という言葉に甘えて、彼らの家に1週間滞在させてもらいました。ダブリン市街や近郊の町はもちろん、ダブリン発着のドイツツアーにも参加し、ジャイアンツコースウェーやモハーの断崖などアイルランドの観光名所をあちこち見て回りました。またバンクホリデーには、「公共交通機関で行くのは不便だろうから…」と、車で Newgrange ニューグレンジと Glendalough グレンダロッホを案内してもらいました。2人からいろいろな話を聞くことができ、自分だけで観光するよりもより深く楽しむことができました。



Jたちは観光地だけでなく、近くの町 Naas ネースのパブで行われている「アイリッシュダンス」の練習にも連れて行ってくださり、初心者なのに優しくていねいにレッスンしてくださいました。はじめてのアイリッシュダンスでしたが、汗だくになるほど熱中して踊り楽しむことができました。たくさんのアイルランド人とも知り合いになり、いろいろな話のできたのも忘れられない思い出です。またある日は、カヤッククラブのメンバーでもある2人と一緒に近所の運河でカヤックを楽しみました。カヤックでどこに行くの

かと思いきや、着いた先はなんとパブ！！ カヤックを降りて行きつけのパブでギネスビールを飲み、またカヤックを漕いで家に帰るといふ、なんともアイルランド的なカヤック体験でした。

8月7日～9日 Galway (K & C宅)



Galway ゴールウェイの中心地から20分ほど歩いた所に住む K は1歳の女の子のお母さんでした。着いて早速、3人で近所のゴールウェイ大学へ散歩に出かけました。散歩の途中で見つけた藪では、「今日のデザートに使いましょう。」とブラックベリーや木苺の実をたくさん摘んで帰りました。共働きの2人は、子育てと家事と仕事にとっても忙しそうでしたが、それでも私を受け入れてくれる優しさが本当に心にしみました。次の日は朝からバスとフェリーに乗って

Aran アラン諸島へ出かけました。出発前からとても楽しみにしていたアラン観光の日は朝からお天気に恵まれ、島では一日サイクリングを楽しみました。アランの自然と Dun Aengus ドンエンガスの絶景を満喫することができ、大満足の1日でした。

9日はKの自宅で子どもたちとそのお母さんお父さんがたくさん集まるパパママ会がありました。9月から5月までは地域のコミュニティーでそのような子育てサークルの集まりが定期的にあるようですが、ホリデイ期間中はそれもお休みで、Kが呼びかけて自宅で集まることにしたそうです。アイルランドの子育ての様子を垣間見ることができ、とても貴重な経験となりました。午後からはお父さんCが女の子の散歩がてらにゴールウェイの町を案内してくれました。この町のこと、自分の仕事（俳優さんだそうです）のこと、家族のこと、いろんな話を聞いているうちに、アイルランドにいつそう親しみがわいてきました。

8月9日～11日 Kinvara (A宅)

次のホストはゴールウェイからバスで40分ほどの町 Kinvarra キンバーラ郊外に住むAです。アイルランド伝統の藁ぶき屋根で、中にはアーティストである彼女の作品があちこちに飾られており、とてもセンスがよく居心地のいい家でした。アイルランドのガイドブックを出版したこともあるというAはアイルランドの自然に詳しく、そして、それをこよなく愛しており、近くの海沿いの散歩道や、自分がお気に入りの Burren バレン高原に私を案内してくれました。バレン高原は石灰石に覆われた岩ばかりの不毛の地、灰色の地と書かれていることが多いのですが、実際に高原の奥まで歩いてみると、岩と岩の間には緑があり、色とりどりの高原植物が咲き乱れ、とても豊かな場所だということが分かりました。ガイドブックやありきたりのツアーでは決して知ることができないバレン高原の一面を知ることができ、とてもうれしい体験でした。

8月11日～13日 Limerick (J & H宅)

次のホストの家はLimerick リムリックの郊外 Fedemore フェデモアにある、信じられないくらい広いお庭にお花が咲き乱れ、畑には美味しそうな野菜がたくさん育つ、夢のような住まいでした。お母さんのHは「何でも自分で作るのが好きなの！」と料理はもちろん、ジャムやソース、デザートのカークやアイスクリームまで何でも手作りでした。自分の畑で収穫した野菜をふんだんに使った手料理は



本当にどれもこれも美味しく何度もおかわりしました。近くにも自然はたくさんあるのですが、車で30分ほどの自然公園まで犬の散歩に連れて行ってくださり、2匹の犬と一緒に山登りを楽しみました。

こんな所で自由に走り回ることができるアイルランドの犬たちは本当に幸せだなとつくづく思いました。



た。家のピアノは180年前のアンティークですがいまだ現役で、お父さんの J が素敵な音楽を聞かせてくださいました。私もつたないピアノを披露し、ささやかな音楽交流の夕べとなりました。次の日は近くの Bunratty ボンラッティを案内していただき、アイルランドの昔の暮らしぶりや様々な家のつくりについても詳しく教えてもらうことができました。

8月13日～17日 Tralee (C宅)

今回の旅で私がとても楽しみにしていた1つが、アイルランド南西部にある Kerry ケリー州の自然です。サーバスのホストは一人もいなかったのですが、昨年我が家に来た J の息子 C さんがケリーの Tralee トラリーという町の大学に通っており、私を部屋に泊めてくれるというのでまたまたその言葉に甘えることにしました。

ケリーにいた期間もお天気に恵まれ、14日の Killarney キラーニー国立公園のサイクリングとトレッキング、15日の Ring of Kerry リングオブケリー、16日の Dingle ディングル半島、すべてアイルランドには珍しい晴天の下で、雄大な自然を心行くまで堪能しました。アイルランドの自然の美しさを一言で表すことはとても難しいのですが、どこに行っても緑が豊かで広々としており、海や湖がきれいで、とにかく人の手があまり入っていない自然そのままの美しさがあります。また、ピラミッドよりも古い紀元前5千年も昔の遺跡や、まるで映画のワンシーンそのものと言っていいような趣のある修道院の廃墟などがあちこちに残っており、自然だけでなく歴史を感じることもできる素晴らしい場所です。カレンダーや絵葉書の写真そのままの絶景が目の前に広がっているのに、それほど観光客で込み合うこともなく、その雄大な自然や歴史の重みを、のんびりと自分のペースで味わうことができるのもアイルランドの魅力の1つだと感じました。(ちなみにアイルランドはアウターウォーズ7と8の撮影地にもなっており、映画で見るとまるでCGで作ったかのような自然の雄大さです。)

トラリーで大学に通っている C はホテルのコックとしての仕事に忙しく、日中はあまり一緒にいられなかったのですが、休みの時はトラリーの町を散歩したり、アイルランド料理を作ってくれたり、パブに行ってアイリッシュ音楽を楽しんだり、同じ大学の友だちと一緒に朝方まで飲み明かしたりと、まるで私自身も大学生にもどったような気分させてくれました。

8月17日～19日 New Ross (O & D宅)

このサーバス旅行では、農家に泊まってみたいという夢をかなえることができました。New Ross ニューロス郊外でオーガニック野菜を作ったり、羊や牛を育てたりしている O と D の家は、なんと築251年！家には部屋が21個もあり、家具はすべてアンティーク、まるで博物館の中で生活しているようでした。広々としたサンルームには立派なぶどうの木があり、朝ごはんのテーブルでは目の前の枝からぶどうの実をもいで食べるという、なんとも贅沢な朝食でした。

8月は野菜のピーク時で、2人は朝から晩まで収穫や出荷に大忙し。6人いるお子さんのうちこの時家にいた2人と、イギリスから遊びに来ていた従兄弟の男の子もみんなよく働いていました。私も一緒に1日農業体験をさせてもらいました。オーガニックの畑は雑草が伸び放題ですが、その中で元気に育ったブロッコリーをただ黙々と収穫し、ズッキーニの出荷を手伝いました。何もかも初めてで少し疲れましたが、広大な畑ですがすがしい気候の中を働くのはとても気持ちよかったです。出稼ぎのポーランド人たちと一緒に楽しく働くことができたのも貴重な経験の1つです。

8月19日～21日 Dún Laoghaire (D宅)

アイルランドをぐるっと回り、旅の最後にまたダブリンに戻ってきました。海岸沿いをダブリンに向けて北へ走る列車からの眺めはとてもきれいで、思わず見とれるほどでした。初めの1週間でダブリンの市街地や北部郊外は見ていたので、今度はダブリン南のシーサイドタウン **Dún Laoghaire** ダン・レアリーのホストにお世話になることにしました。Dは日本にも何年か住んだことがあるという大の日本びいきで、家の中には日本の調度品や絵がたくさん飾られており、「庭に日本庭園を作る計画をしているところだよ。」とうれしそうに話をしてくれました。



家から5分ほど歩くとそこはもう海岸線で、遊歩道が整備されており美しい海を見ながら散歩を楽しむ人たちの姿が1日中たえないとても素敵な町でした。20日はそこから **Dart** ダートという列車に乗って **Bray** ブレイという町に行きました。ブレイの市街地から少し歩いてブレイ・ヘッドという丘の頂上に登ると、ブレイの海岸線や内陸の緑の丘陵地までをずっと見渡すことができ、息をのむほどの美しさでした。そこからまた1時間ほど海岸を南に向かって **Greystones** グレイストーンズという町までトレッキングを楽しみました。どこまでも続く青い海岸線や、緑の丘、優しく咲く色とりどり花の景色は本当にどこをとっても美しく、少し歩いては景色に見とれ、また少し歩いては違う景色に心を奪われ、とてもとても幸せな時間でした。

今回のアイルランド旅行(2泊2日)では7件のホストにお世話になりました。旅を終えて心に残っていることが2つあります。1つは美しいアイルランドの自然です。1年を通して気候が穏やかでよく雨が降るせいか、とにかく緑が豊かです。そこに羊や牛、馬、ロバがのびのびと放牧されており、その風景には心が癒されます。町から少し離れたら、もうそこからは行けども行けどもひたすら緑の草原が広がっており、そこに居ただけでのんびりとした穏やかな気持ちになりました。もう1つはフレンドリーで気さくなアイルランドの人たちです。サーバスの人以外でも、アイルランドでは出会う人たちが本当に親しみやすく、素朴な感じがしました。パブでは初対面の人同士でも気軽にあいさつをして会話を始め、音楽があれば時に声を合わせて歌います。よそよそしさがなく、出会ったばかりでもまるで前からの友人のように話しかけてくれます。ゆったりとした自然とおおらかな人たち、実際に訪れたアイルランドは私の想像を超えた素晴らしい国でした。その背景には複雑な歴史と、これまでに積み重ねられた音楽や文学の背景があると思います。再度この地を訪れてもっともっと知りたいと思わせる深みを持った国でもありました。

サーバスはその国の自然や文化をより深く知る機会を与えてくれます。この素晴らしい経験をいろんな人にもっと味わってほしいと強く思います。今回の旅でも、身元も知れない一人の日本人に皆さんたくさん善意と信頼を示してくださいました。この場を借りて素晴らしきサーバス会員の皆様に感謝を述べるとともに、何にもかえがたい貴重な経験の機会を与えてくれるサーバスの組織とその運営にかかわる方々にお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

4. 会員交流—北から南から—

昨年は先方の事情で来られず、今夏は2年ぶりの再会でした。こちらの高齢？を気遣われてか先方から1週間と言ってこられました。

8月1日 彦根で途中下車、彦根城を訪ね、ひこにちゃんと楽しい時間を過ごして夕方石山へ。二人の子供たちは小学校3年生と幼稚園年長さんになって一まわり以上も大きくなっていました。血縁ではなくとも、そして年に一度ではあっても、この4年間の繋がりは遠くに孫がいるような心温まる思いです。



2日 前もって予約していた「リビング」のカルチャークラブ・夏休みこども特集版のモール細工の子犬作りに参加。

3日 近所の市営プールへ。水泳後 隣の公園で遊ぶうちスコールに遭い再び濡れ鼠に。これも夏ならではの思い出になるかも。

4日 湖南アルプス麓の河原へ水遊び。全くの自然の河原が子供たちには格好の遊び場の様子。ランチタイムももどかしそうにすぐにまた水辺へ。おやつよりも遊びが優先。前回同様おやつを用意したが不用だった。

5日 箱館山へ百合の花見の予定で出発。途中で妹が車酔い。ちょうど傍の公園へ。なんとそこは明智光秀の城跡だった。老ドラマーが軽トラの屋根利用の日除けの下で練習？に熱中していた。いつも何かあるらしいと思いつつ通過していた小さな公園が城跡だったこと、また琵琶の語りで有名な「明智左馬之助湖水渡」のゴールだったことなど、思わぬ歴史学習でした。

幸い車酔いも治まり、コースを変更して琵琶湖大橋を東へ渡り、リニューアルした琵琶湖博物館へ。3年前は淡水魚水族館だけを楽しんだが、今回は展示の多くに関心を示し、水族館でも新来のパイカルアザラシの可愛らしさに見とれ、手で触れてよいザリガニや鮎に行列してなんども触れたり、サメの餌やりも楽しみ、このコース変更がとてもよかった。ここでも子供たちの成長を実感。後日 箱館山へ行った隣人から百合はもう枯れていて残念だったと聞いた。



6日 広島原爆忌。恒例の三井寺主催平和祈念法要に朝から参列。平和祈念の短冊を付けた沢山の風船を大空に放った。そのあと堂内で勤行、法話。金堂の子供たちの平和の絵画展へ。そこでモンゴルからの沢山の作品も鑑賞。沖村舞葉さんの紙芝居も見る。西武でランチ後、高校生の孫娘と合流。小3の姉が「芭蕉」を習ったというので幻住庵へ。幸いほかに人がなく、思い切り自由に庵でのひと時を楽しむ。我が孫娘と奥の細道の冒頭の掛け軸を読めたのも嬉しかった。家では「俳諧かるた」

に熱中。前日は「筆文字で難しそう」という母親の感想に子供たちものらなかったが、仲良しになった高校生のお姉ちゃんと一緒にとなると一変、年長兄の妹までが絵で狙いをつけてかまさかの札を何枚も取り、繰り返すこと数回に及んだ。要はきっかけが大きな動機と知る。夕方から地元の納涼祭へ。孫娘も初めての参加。楽しんだ模様。屋台店でかなり食べたようだったが、それから「くら寿司」へ。競争のように楽しく食べるのを胃袋の縮んだ老人は羨ましく眺める。

7日 子供たちのたつての希望でもう一度湖南アルプスの河原へ。テーマパークと違い何の人工も加わらない川辺が無数の遊びを提供してくれるようだ。都会暮らしの子供たちがここを第二の故郷として自然の味わいを体感してくれることが嬉しい。その間私は木陰のシートで終日長閑にお昼寝！これも思

えば保養家族さんの齎してくれた楽しみ。バタバタと暮す日々に2日間も宇宙を見上げて吸い込まれるという忙中有閑でした。

8日 帰宅の日。母は朝から近くのスーパーで野菜の買い出し。そうだった！5年たってもう薄れていた放射能汚染への思い、現地から離れて暮らす我が身の実態。母親はそうはいかない。大きな旅行鞆にしっかり詰めた。そこへ思いがけぬ息子の来訪。出張帰りにお土産を届けに。前日その娘と遊んだ「俳諧かるた」の相手をして子供たちと遊ぶ。お昼ごろ石山駅で別れを惜しんだ。

★ ★ ★

地元では放射能汚染の話題は母親たちの間ではもう一度も上らなくなった。保養に大津へ行くなど誰にも奇異に思われそうだという。どうなっていくのだろうという漠然とした不安があるという。小3の娘の体調不良の原因は？など。放射能汚染のゴミ処理に関しては、関心事だが市民活動はなく、県知事と市長が苦慮している様子。

チェルノブイリから30年、日本政府の対応は彼の国とは比較にならないお粗末さ、これは一体何が原因なのか？

私はといえば、期間半減で体力的負担が軽くなったのは事実。だが、保養家族との絆が私の家族の絆とも重なり、独り子の孫娘も「一日だけ妹が二人できたみたいで楽しかった」と言い、「おふくろはまた余計なことをして・・・」と言いたそうに横目で見ている息子が鹿児島からの運転で疲れていたのに自分から子供たちと遊び、私は内心の嬉しさを隠しきれなかった。来年も楽しみ。元気でいよう。

サーバス近畿支部の後押しに感謝します。

お礼の手紙 2016.8.2

T.H

W.Aさま

妻子がお世話になっておりますT.Hです。今年もW様のご厚意に遠慮なく甘えさせていただき、誠に申し訳ありません。二人の子供も滋賀にお邪魔できることを、それは楽しみにしておりました。又色々ご迷惑をおかけしてしまうと思いますが、何とぞご容赦下さい。本当に有難うございます。

5. お知らせとお願い

支部長

*12月18日(日)に近畿支部総会を予定しています。場所未定ですが、年1回の総会です。皆様、是非参加して下さり交流しましょう。お待ちしております。

総会の場所を交通便利な梅田近辺に捜しています。適当な場所に心あたりのある方は支部長までご連絡ください。昼食、又は、夕食を挟んで2~3時間、参加費5000円まででお願いします。

*2016年度サーバス年会費(一般3000円 学生2000円 休会者B1500円)をまだお払い頂いていない方は、次の口座へ宜しく願います。

口座番号00990-6-33645 加入者名 日本サーバス近畿支部

以上